

# シートで情報交換

弘前保健所  
管内モデル  
新年度、運用を開始

要受援・要介護状態の入院患者退院後、巴郡に在宅生活へ移行できるよう、県が今年度、中津地境県立病院療養病棟を併設型（当初仮保衛型）養護用をモデル地域に策定を進めている。病院とケアマネジャー間の調整整然も、14日、決まった。ばらつきがあった相互の情報提供のやり方について統一したもので、ケアマン、病院の双方が入退院に情報提供を行う。新年度から運用を開始する。（西尾瑛）



月、療養のケアマネを  
弘前保健管内に於ける病院にアママネ  
ヤの入退院調整ル  
ヲを最終決定した市町  
村担当者協議

対等にしたいとケンゲ  
つたは、病院からケア  
マネに退院時の情報提  
供がなかった割合は24  
%。入院中にケアマネ  
からの病状・情報提供の  
なかつた割合は78・9  
%だった。

今回策定されたルー  
ルでは、対象患者の基  
準のほか、入退院調整  
時間を取りシフトを  
提供する。

運用開始後は、ケア  
マネのアシキート調  
査を実施し、必要に応じ修正する。  
策定協会は、病院、  
退院予定があれば、  
シフトを出発。また、  
入院時は、ケアマナ  
ネから入院、食事や  
入浴の日生活動作  
の状況について記  
した入退院情報提供  
シートを提供する。

病院長は、「同様にケ  
アマネ側に退院調整  
時間を取シフトを」  
提供する。

運用開始後は、ケア  
マネのアシキート調  
査を実施し、必要に応じ修正する。  
策定協会は、病院、

ケアマネ 市町村、地域の流れについても意見が交わされた。ルールは、14日に弘前市のラグビーで開かれた市町村担当者の会議で最終決定となり、ケアマネへの周知の方法も運用後が最終的な目標。今後

# 入退院時に円滑連携

## 津軽圏域病院とケアマネジャー

国モデル事業 来月、新ルール運用

介護保険法の改正で、2018年度から全ての市町村が取り組むことになっている「在宅医療・介護連携の推進」をめぐり、弘前保健所などは14日、津軽圏域の病院とケアマネジャー間で共通の「入退院調整ルー ル」を策定し、公表した。4月から同ルー ルに基づいて運用をスタートさせる方針で、青森県は津軽圏域をモデルケースにして全圏域に広げる考えだ。

ルー ル策定は国のモデルルー ル事業として、弘前保健所と圏域内の8市町村、地域包括ケアセンターなどが15年度に着手。これまでの検査や支援センターなどが踏まえ、14日に弘前市市で開かれた担当者会の合

で弘前保健所が新たなルールを公表した。介護保険の利用者と申請者を対象に、情報共有の在り方について病院とケアマネジャーのそれぞれの役割を明記し、連絡時の統一様式も定めた。

運用は、精神科を除く圏域内の全18病院と、居宅介護支援事業所全33カ所が参加する。半年後に状況を調査し、見直しを図る予定だ。

弘前保健所の山中朋子所長は「ルールから文化となつて定着してほしい。現場の声を聞いてより良い運用にしたい」と話した。

(三浦美智子)

支操事業所全1,322カ所が参加する。半年後に状況を調査し、見直しを図る予定だ。

弘前保健所の山中朋子所長は「ルールから文化となつて定着してほしい。現場の声を聞いてより良い運用にしたい」と話した。

(三浦典子)

（三浦典子）

デーリー東北（平成28年3月15日）

陸奥新報（平成28年3月15日）

# 決定した入退院調整ルール（入退院調整のイメージ）

## ①介護認定がされていて担当ケアマネジャー（以下ケアマネ）がいる場合



## ②新たに介護保険サービスを受ける場合

